

カイコウカイ クリニック スナヤン

ニューズレター Mari Hidup Sehat!



Vol.15

2018年 8月号

結核について正しく知っていますか？

結核は日本ではもうなくなった病気と考えている人も多いようです。昭和25年くらいまでは、日本の死亡原因第1位になっており、不治の病だとおそれられていました。

しかしBCGの予防接種が始まり、1957年からは公費で接種できるようになり、さらに抗生物質による治療が進みましたので、1960年代からは、治療できる病であるととらえ方が変化しました。しかし、現在でも、1年に新しい患者が1万8千人以上、結核で亡くなる人も、年間1955人（2015年）となっています。“けっして過去の病気ではない”と厚生労働省も注意を呼びかけています。

この病気は、結核菌による感染症で、空気感染をするので、患者さんの咳やくしゃみから感染をおこします。肺結核が有名で、約80%を占めていますが、血液やリンパ液にのって、身体のいたるところ、骨、関節や腎臓などにも発症します。昔の映画などで、咯血のシーンなどがあり、それが症状だと思っている人が多いと思いますが、必ずしもわかりやすい症状が初めから出るわけではなく、長引く咳や痰、微熱やだるさなど、風邪のような症状がみられます。また、感染して、すぐに発症するのではなく、何十年もたってから、免疫力が落ちた時に発症するケースが多いようです。そのため、高齢化の進んだ今、高齢者の発症がとて多くなっているのです。70歳以上の発症が50%以上占めています。とはいっても、免疫力が下がれば発症のリスクは高まります。時々、若い芸能人の方の発症で、話題になっていると思います。

しかし、1歳ころまでに受けるBCG予防接種により、幼児期の結核による重い症状は予防されていますし、早く発見して、指示通り薬物治療をすれば治癒する病気ですので、心配しすぎる必要はないのです。

インドネシアでは、日本に比べても結核患者が多く、乳児は、生後2～3か月にBCG予防接種を打つことになっています。また、まわりの従業員の方などでも発症する方がいて心配だと思っています。そこで、今回は、よくある質問について、お答えしていきたいと思います。

Q1.日本とインドネシアでは、予防接種に違いがありますか？

結核の予防のためには、乳児期のBCGワクチンがあります。日本では、生後5か月から8か月の間に接種を推奨されています。接種すると、10年から15年くらい効果があると言われていいますので、乳児期に感染して重い症状になるのを防ぐことができます。日本では、スタンプ式で上腕に行なわれます。

インドネシアでは、生後2～3か月に接種が推奨されています。周りに病気の人が多いからです。スタンプ式ではなく、皮内注射で行われています。当クリニックで使っているワクチンは、BIOFARMA製（インドネシアの国営企業で、信頼できる製薬会社）の生ワクチンです。日本で接種前にインドネシアにこられた赤ちゃんには、まずこのBCG接種を勧めています。

Q2.大人でもBCGワクチンで予防ができますか？

大人へのワクチンの効果は証明されていないので、日本でも、インドネシアでも、成人への接種はしません。

Q3.もし周りに結核の発症者が出たら、どうすればいいですか？

もし、結核菌が体の中に入っても、必ず感染するとは限りません。私たちの身体の免疫力が働いて、菌を排除します。また、発症者に接触してから、感染したかどうかわかるまで、8~10週間かかると言われています。ですから、接触して心配な方は、2か月から3か月後に、検査を受けることをお勧めします。あわてて病院に駆け込む必要はありません。それよりも、免疫力が低下しないような生活を心がけましょう。

Q4.どんな検査が行われますか？

IGRA（インターフェロンガンマ遊離試験）という血液検査を行います。（小学生以上で検査可能です）以前は、ツベルクリン反応で検査をした記憶があるかと思いますが、2005年からは、子どもの予防接種も、ツベルクリン反応をしないで、BCGを接種するように変更になっています。ツベルクリン反応では、結核に感染しているのか、BCG接種の影響が残っているか判断ができません。このIGRA検査でも、100%わかるわけではないのですが、90%を超える感度で判断できるようです。BCGを受けたことがあるかどうかにかかわらず、体内に結核菌が存在しているかどうかを見極めるのに有効です。IGRA検査で陰性でも、他の検査により結核と診断されるケースもあります。

Q5.IGRA検査で陽性だったら、結核だということですか？

陽性の場合、結核菌に感染している可能性がかなり高いです。ただ、陽性でも他の病気の可能性も少なからずありますので、鑑別診断は必要になります。胸部X線、CT、喀痰検査などで総合的に判断していくことになります。

この検査では、感染していることはわかりますが、発病とは異なります。感染していても、体の中で抑えられており、潜在性結核という状態にあることが多いのです。感染しても、発病するのは、10人に1人か2人です。

また、この検査では、いつ感染したのかまでは特定できないので、今回の発症者との接触により感染したのか、もっと前にどこかで感染したのかの区別はできません。

潜在性結核の状態では、まわりの人に感染を広げるリスクはありませんので、マスク着用などの必要は全くありません。

Q6.感染と発病はどう違うのですか？

発病した状態というのは、結核菌が身体から排菌されている状態です。この状態では、周囲の人に感染を広げる可能性が高いです。肺結核であれば胸部レントゲンやCTなどでも確認ができます。喀痰検査をして、診断を確定することになります。

感染しても発症しない状態（潜在性結核）は、体の中に潜在的にずっと結核菌がある状態です。そのまま一生発症しない人もいますし、免疫力が落ちた時に発症することがあります。

日本では、この潜在性結核の状態でも、予防内服といって、薬物療法を6-9か月間行ないます。発症のリスクを下げる目的です。インドネシアでは、小児や高齢者など免疫力が低下した人の場合のみ予防内服を行ないます。

当クリニックでは、予防内服治療を受け付けておりますので、ご相談ください。

ただし、発症のリスクを少しでも減らす目的で行われるものですから、完治ではなく、発症のリスクは残ります。また長期に服用しますので、副作用のリスクもあります。予防服薬をするかどうかは、個々の状態に応じて、医師と相談することが大切です。

Q7.もし発症したら、どんな治療が行われますか？

抗生物質を4剤併用した薬物療法がおこなわれます。6か月から9か月間、毎日薬を飲み続けることが必要です。4剤を併用するのは、抗生物質が効かなくなる薬剤耐性という状態を避けるためです。

また、一番重要なのは、症状がなくなったからと言って、薬を勝手に中断してはいけません。薬によって症状は治まっても、体の中にはまだ結核菌が活動しています。中途半端にやめてしまうと、再発するだけでなく、薬の耐性ができてしまい、抗生物質が効かなくなってしまう恐れがあります。それにより、集団感染の問題も出てきます。医師がこれで終了というまでは、必ず飲み続けてください。

この治療方針は、日本もインドネシアも同じです。

Q8.治療は隔離されて行われますか？

日本では、診断した医師は、すぐに保健所に届け出る必要があります。インドネシアでも、PUSKESMAS（保健センター）に届け出ることでなっています。

結核菌を排菌している人との接触は、感染を広げますので、排菌している間は、入院治療をすることになります。ほとんどの場合には、2か月程度で、排菌がなくなりますので、その後は、通院治療で大丈夫です。適切な治療をすれば、2週間後には排菌が見られなくなるといわれますが、数回の検査により、完全に排菌されていないことを確認してから退院を許可されますので、日本では入院期間が長くなっています。

インドネシアでは、病状が安定していれば、数日の入院で、あとは自宅療養になることが多いです。

潜在性結核（排菌なし）の時には、もちろん通院治療で、通学や通勤も普通に行なって大丈夫です。

Q9.日本に帰って、治療することができますか？

発症して排菌がある状態では、周囲に感染を広げる恐れがありますので、飛行機での日本への移動は避けてください。治療を行ない、排菌がなくなれば、飛行機移動も可能です。しかし、服薬治療は6か月など長期にわたります。治療技術の点だけでいえば、患者数の多いインドネシアで治療することが十分に可能です。治療法・診断方法に大きな違いはありません。

Q10. 結核は完治するのですか？

結核は適切な治療により治る病気ですが、これは発症の危険を抑える治療が完了したという意味で、完治ということではありません。一度かかって回復したら、一生にわたり同じ感染症にはかからないという、いわゆる終生免疫ではありません。治療完了により、かなり再発の可能性は下がりますが、ゼロにはなりませんので、免疫力が低下したときに再発する可能性はあります。

もし、潜在性結核で予防内服を完了しても、結核菌が100%体内に残らないというわけではないのです。健康な生活習慣を心がけてください。

Q11.結核の予防、早期発見には何が大切ですか？

咳が2週間続くような場合、また微熱やだるさ、痰などがみられるときには、早めに受診してください。風邪の症状と似ていますので、自分で勝手な判断をするのは危険です。また、発症者と接触があった時には、8-10週後に検査を受けることをお勧めします。

自分自身の免疫力を高めておくことが最も重要な予防策になります。潜在性結核から発症する可能性の高いのは、高齢者だけではなく、栄養低下、糖尿病、他の病気により治療を受けている場合、大量飲酒者、となっています。栄養のバランス、十分な睡眠が大切になります。感染が分かった時には、免疫力を低下させないように生活を整えましょう。

厚労省のホームページ(政策について→健康、医療)に情報が載っています。参考にされるといいでしょう。

正しい診断をより早く

厚生労働省

それって、いつもの風邪ですか？

どうしました？

風邪なんです

...

...

? このままではいつから、どのような症状があったかわからない

! 本当は痰のからむ咳が2週間以上続いている

いつもと違うところを医師に伝えましょう

たとえば、このようなことに心当たりはありますか？

感染症の正しい診断に役立つ情報

<input checked="" type="checkbox"/> 痰のからむ咳が2週間以上続いている	<input type="checkbox"/> 最近、海外旅行から帰って来た
<input checked="" type="checkbox"/> 微熱・身体のだるさが2週間以上続いている	<input type="checkbox"/> 身体に濃いボツボツが出て来た
	<input type="checkbox"/> 山遊びでダニに咬まれた跡がある
	<input type="checkbox"/> 海外旅行で何度も蚊に刺された
	<input type="checkbox"/> 耳の後ろのリンパ腺が腫れている感じがあるなど

こちらにチェックが入る場合には結核の可能性がります。

～長引く咳は結核かも～

結核予防週間 9月24日～9月30日

厚生労働省 結核 検査

平成29年9月

ご質問・ご相談は、お気軽にクリニック窓口にお声かけください。
インドネシア語版もあります。

連絡先: info@kaikou.co.id
www.kaikou.co.id